

三嶺の森概況報告—源流部で進む土壌侵食—

押岡 茂紀（三嶺の森をまもるみんなの会）

三嶺山系でシカによる食害が顕著になった 2007 年から 10 年以上が経過し、樹皮剥ぎにより枯れた樹木の風などによる転倒が増加した。ササが消えた林床は、雨が降るたびに侵食が進んでいる。樹木の転倒が侵食を招き、侵食が崩壊へとつながる負の連鎖が進んでいる。

2020 年の梅雨は雨が多かった。大栃では 6 月中旬から 7 月下旬にかけて約 1900mm の雨が降った。これは大栃の 6 月と 7 月の月降水量平年値の合計 760mm の 2.5 倍、年降水量の平年値 2774.2mm の 68% がふた月足らずで降ったことになる。大崩壊を招くような豪雨はなかったが、それでも時間雨量 65mm、10 分間雨量 26mm といった雨が単発的に発生していた。

ここでは、2020 年の梅雨明け後の三嶺の森の状況を報告する。

■カンカケ谷

2020 年 9 月 15 日のカンカケ谷。どの谷も土砂と石礫、そして流木が流れ出していた。谷以外の斜面も転石が多く、表面を土砂が流れた様子がよく分かる状態だった。



■フスベヨリ谷

2004年の大崩壊から15年以上が経過した。土石流でダメージを受けたフスベヨリ谷は、未だに安定せず、大雨のたびに谷の側方斜面からの崩落が続いている。谷筋からの土砂の流出も多発している。登山道がほとんど残っていない区間もあり、登山ルートとしては機能していない。

(撮影：2020年8月6日)



■堂床谷

徳島県との県境である尾根に近い堂床谷の源頭部。ここもかつてはスズタケが林床一面を覆っていた。大小のガリー侵食、小規模な地滑りがみられる。豪雨がきたら一気に崩れる恐れあり。

(撮影：2020年10月18日)



